

第4学年「国語」学習指導案

授業者 片山 守道

2月22日（金）3階D室 10:00～10:40 話し合い10:55～11:45

1 単元名 情報をつむいで読む 『くらしの中の和と洋』

2 単元について

単元	〇くらしの中にある対比的な特徴について、情報収集をもとにまとめ、説明する。
目標	〇日本のくらしの知恵や工夫について、対話を通して自分の考えを深める。

4年生の3学期を迎え、子どもたちは、文章から必要な情報を見つけ出し、考えと理由や事例との関係に気をつけながら、自分なりに整理してまとめたり、要約したりすることができるようになってきている。しかし、情報の内容をどこまで実感をもって具体的にとらえられているかは判然としない。

また、子どもたちは、書かれている情報は正しいものと信じ、肯定的に受け止めようとする傾向が強く、筆者のものの見方・考え方や論じ方に疑問を呈したり、反論したりするような読み方には至っていない。4月には、高学年となる子どもたちには、書かれている情報を鵜呑みにするのではなく、自分の経験や他の情報と照らし合わせて吟味しながら、自分の読みをつくっていくような経験をさせたい。

本単元の教科書教材『くらしの中の和と洋』は、和洋折衷で成り立っている日本のくらしについて、衣食住の「住」を取り上げて、具体的に例を挙げて比較しながら「和」と「洋」それぞれのよさがどのように生かされているのかを説明している文章である。分かりやすい構成と説明で、子どもたちは納得して読むことができるであろう。しかし、話題について掘り下げて考えてみると、現在の日本のくらしは、和洋の対比だけでは説明しきれない、様々な工夫の基に成り立っていることに思い至る。

本単元では、まず文章を自分なりにとらえた上で、調べ学習を行う。テーマについて深く考えた上で再度文章を読むことにより、自分の考えをつくり、自他の違いに気づくことができればと考えている。

3 学習指導計画（8時間目／全12時間）

- (1) 教科書「くらしの中の和と洋」を読み、学習の見通しを立てる。 (2時間)
*日本のくらし（衣食住）に関わる資料を探したり、身近な大人に取材したりする。（家庭学習）
- (2) 「和と洋のよさをいかすくらし」について、教科書をもとにまとめる (2時間)
- (3) 「くらしの中の〇〇と××」について自分の調べたことをまとめる。 (2時間)
- (4) 調べたことをもとに、「日本のくらし」について話し合う。 (2時間)
- (5) 改めて「くらしの中の和と洋」を読み、筆者に対する意見を話し合う。 (本時1／2時間)
- (6) 学習のまとめとして、「わたしたちのくらしの工夫」を書き、読み合う。 (2時間)

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- ・調べてきた「日本のくらし」の特色をふまえて、文章をとらえ直し、読みを深める。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時までの学習でとらえた「日本のくらし」について確認する。	〇様々な文化を取り入れてつくられてきた日本のくらしの特色を押さえる。
2 改めて「くらしの中の和と洋」を読む。	〇自分の考えと比べながら読むよう促す。
3 筆者の説明の工夫や気になる点などについて話し合う。	〇自分たちの生活経験や調べたことをふまえて読むことで、筆者の見方・考え方や書きぶりの特徴に気づかせたい。
4 本時の学習をふり返る。	

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

本時の活動を通して、様々な情報をつむいで、文章と向き合って読むことができていたか。